



パート5

今日のオー ストラリア

今日のオーストラリア

このセクションでは、オーストラリアの文化、革新者、国民的アイデンティティについて学びます。オーストラリアは活力溢れるビジネスと貿易のパートナーであり、尊敬を受ける世界市民でもあります。オーストラリアの人々はこの国の絶え間ない成長と持続に対する、新移民の方々の貢献を尊重します。

土地

オーストラリアは世界でも最古の陸塊のひとつです。面積では世界第六位の国で、島国としては世界最大です。また、最も平坦で乾燥した生息地でもあります。オーストラリアの多くは土壌が悪く、降水量も少ないため、耕作が困難です。乾いた内陸部の地域は「アウトバック」と呼ばれ、僻地で厳しい環境です。オーストラリアでは、水は大変貴重な資源です。

オーストラリアはこのように大きな国なので、気候がまったく異なる地域があります。オーストラリア北部には熱帯地域があり、中央部は砂漠となっています。南部では、気温は山岳では雪も見られる涼しい冬から夏の熱波までと変動することもあります。

6つの州と本土にある2つのテリトリーに加え、オーストラリア政府はさらに次の領域を管理しています。

- アッシュモア諸島とカルティエ諸島
- クリスマス島
- ココス（キーリング）諸島
- ジャービスベイテリトリー
- コーラルシーアイランド
- オーストラリア南極地域のハード島とマクドナルド諸島
- ノーフォーク島。

世界遺産指定地

次のオーストラリアの遺跡が、国連教育科学文化機関（UNESCO）の世界遺産リストに載っています。

文化的

- オーストラリアの受刑者サイト
- Budj Bimの文化的景観
- メルボルンの王立展示館とカールトン庭園
- シドニーオペラハウス



シドニーオペラハウス

自然

- 南オーストラリアとクイーンズランド（リバーズリー/ナラコーテ）にあるオーストラリアの哺乳類化石地域
- クガリ（旧称フレーザー島）
- オーストラリアコンドワナ熱帯雨林
- グレートバリアリーフ
- グレーター・ブルー・マウンテンズ地域
- ハード島とマクドナルド諸島
- ロードハウアイランドグループ
- マッコリー島
- ニンガルーコースト
- パヌルル国立公園
- シャーク湾、西オーストラリア
- クイーンズランドの湿潤熱帯地域。

混合

- カカドゥ国立公園
- タスマニア原生地域
- ウルルカタ・ジュタ国立公園
- ウィランドラ湖群地域。



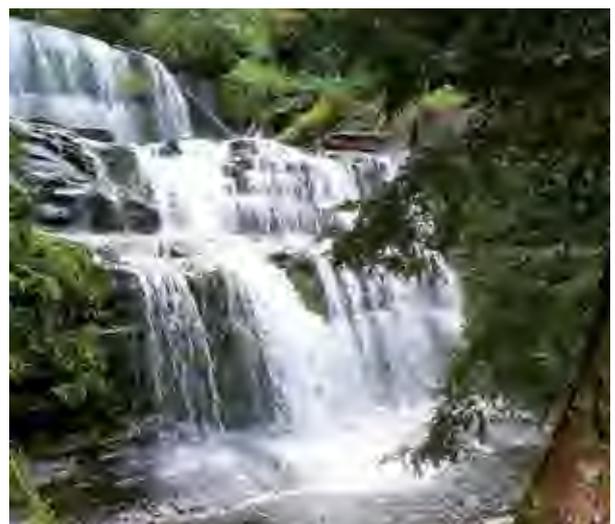
ウルルカタジュタ(Uluru-Kata Tjuta)国立公園のエアーズロックの麓にある波状の岩

さらに、上記の西部の図像と自然の驚異に加えて、アボリジニとトレス海峡諸島の人々にとって重要な、全国の何千もの聖地があります。これらの遺跡はオーストラリアの文化的構造の重要な部分であり、すべてのオーストラリア人にとって重要です。神聖な場所は通常、祖先の存在の物語と、広大な景観を作り出し、文化的価値観、親族関係、社会秩序を組み込んだ役割と関連しています。

広大な国

アボリジニとトレス海峡諸島の人々は土地と特別な関係を持っています。彼らは常に隣人との接触を大切にし、会うために長い距離を旅してきました。アボリジニとトレス海峡諸島の人々の「歌声」は、伝統的な法律、歴史、文化を地理と結びつけ、オーストラリア全土のさまざまな文化や言語グループにまたがる物語です。それは何千年の間維持され、実践されてきました。

オーストラリアの多くの地域では、人々は学校、医療サービス、店など、他のオーストラリア人が当たり前と思っているサービスへのアクセスが限られています。私たちは協力して、遠隔地に住む人々をサポートします。著名なオーストラリア人は、工夫と革新を通じて、遠隔地の問題の解決を支援してきました。



タスマニア原生地域



ペダル式無線

1929年、アデレード出身のアルフレッド・トレガー (Alfred Traegar) は最初のペダル式無線を設計しました。利用者は足でペダルを踏むことにより送受信兼用の無線を使うことが出来ました。この発明により孤独な牧場の人々、僻地の宣教所、アボリジニおよびトレス諸島民のコミュニティの全員が恩恵を受けました。ペダル式無線は、ロイヤルフライングドクターサービスおよびスクール・オブ・ジ・エアーというオーストラリアならではの二つの偉大な制度の確立にも役立ちました。

ロイヤル フライングドクターサービス

ジョン・フリン牧師 (Reverend John Flynn) は、僻地のコミュニティで人々とともに暮らし働きました。彼は、医師をアウトバックの患者のもとに空路にてできる限り早急に連れてくるための構想を巡らしていました。これを実現するため、彼は政府、カンタス航空 (Qantas)、慈善寄付の援助をえました。ロイヤルフライングドクターサービスは1928年に開始しましたが、僻地の中にはまだサービスに連絡することが出来ない人々もいたのです。ペダル式無線の導入により、より遠隔のコミュニティの人々も早急に医師を呼ぶことが出来るようになりました。

スクール・オブ・ジ・エアー

1950年代まで、僻地で暮らす子供達は寄宿制の学校に入学するか、郵便を利用しての通信教育を受けるかのどちらかしか方法はありませんでした (上記の画像参照)。南オーストラリアのロイヤルフライングドクターサービスの副会長であったアデレード・ミエスケは、フライングドクター用の無線は家庭にいる子供達と教師が会話をするのにも役立つことに気付きました。アリススプリング (Alice Springs) のサービスは、送受信による授業の放送を1948年に開始しました。スクール・オブ・ジ・エアーが正式に発足したのはそれから数年後のことです。オーストラリアでの経験は、他の国々がこれに類似するプログラムを開始するためにも役立ちました。

古いペダルラジオは高周波ラジオレシーバーに置き換えられ、現在はインターネットに置き換えられています。ロイヤルフライングドクターサービスおよびスクール・オブ・ジ・エアーは、今もなお僻地のコミュニティで暮らすオーストラリア人達のために役立っています。

オーストラリアのアイデンティティ

オーストラリアのアイデンティティは、先住民の伝統と文化、私たちのイギリスからの基盤、人々の多様性、私たちの歴史、日常生活を導く価値観、私たちのライフスタイル、そして尊敬するオーストラリア人など、多くの要因によって形作られています。

パート6、オーストラリアの道のりは我が国の歴史をみます。オーストラリアの植民地時代の過去に関する問題、およびアボリジニとトレス海峡諸島民の最近および現在の状況を強調しています。この物語には、オーストラリアの多様な多文化社会の起源と性質、そして私たちが国家として共に直面してきた戦争などの課題も含まれています。

この章の残りの部分では、私たちが従うライフスタイルのいくつかと、私たちが尊敬する人々について検討します。

スポーツとレクリエーション

オーストラリア人の多くはスポーツを愛し、オーストラリアのスポーツマンは国際的なレベルで素晴らしい成果を収めた選手達も多く生まれています。

歴史を通じ、スポーツはオーストラリアの人々の気質を形作るとともに団結を促してきました。かつての入植の時代には人々は厳しい現実からの一時的な逃避手段としてスポーツにいそんでいました。戦争中においてさえも、オーストラリア防衛軍の軍人達は戦場でのストレスを解消させるためにスポーツの競技試合を開いていました。

スポーツはまた、競技者と見物者両方の一体感を培い、オーストラリア社会に参加し、それにとって大切なものの一部であるという満足感を与えてくれます。アボリジニとトレス海峡の島民と移民のオーストラリア人は、国で最も成功したスポーツマンの1人です。

オーストラリア人の多くはクリケット、バスケットボール、ネットボールおよびホッケーなど、チームスポーツに参加します。サッカー、ラグビーリーグ、ラグビーユニオン、オーストラリア独特のオーストラリアンルールズフットボール（「オーヂールールズ」）のフットボールコードは、観戦を含めて、オーストラリアで非常に人気のあるスポーツです。水泳、テニス、陸上、ゴルフ、サイクリング、ハイキング、サーフィングおよびスキーも人気のあるレクリエーション活動です。

オーストラリアはクリケット競技での国際的成功を特に誇りとしています。オーストラリアと英国のクリケットチームの間では、19世紀後半以来のライバル意識が根付いています。

「国全体で夢中になる」とされるメルボルンカップは世界でも最大の競馬レースの一つです。第一回目のメルボルンカップは1861年に開かれました。11月の第一火曜日であるメルボルンカップデーは1877年以降ビクトリア州で祝日となっています。

サー・ドナルド・ブラッドマン (Sir Donald Bradman) (1908 – 2001年)

サー・ドナルド・ブラッドマンは史上に残る偉大なクリケットのバッツマンであり、オーストラリアにおけるスポーツの英雄です。ニューサウスウェールズのボウラルで(Bowral)育ったドナルド・ブラッドマンは、1928年にオーストラリアのクリケット代表チームで初めてプレーしました。

彼は驚くべきほど足が速い選手でした。1930年、彼にとって初のイギリス遠征では、バッティング記録のほとんどすべてを破りました。21歳までに、彼はすでにオーストラリアの伝説でした。最後となった1948年のツアーにおいて、対イギリス戦では一度も負けなかったことから、チームは「無敵」(The Invincibles)と呼ばれるようになりました。



芸術

オーストラリアには、アボリジニおよびトレス諸島民の伝統的文化を含む、活気溢れるアートシーンがあります。映画、アート、演劇、音楽、ダンス等オーストラリアのビジュアルアーツとパフォーミングアーツのアーティストは、国内外で高い評価を得ています。

文学

オーストラリアは立派な文学史があります。オーストラリアには、アボリジニおよびトレス諸島民の民話を起源とし、18世紀後期に訪れた囚人達の口承文学へと続きました。

オーストラリアの早期の作品は、ブッシュや厳しい環境における生活について書かれたものがほとんどでした。ヘンリー・ローソン(Henry Lawson)やマイルス・フランクリン(Miles Franklin)等の作家は、ブッシュやオーストラリアの生活様式についての詩や小説を執筆しました。

オーストラリアの小説家であるパトリック・ホワイト(Patrick White)は、1973年にノーベル文学賞を受賞しました。その他人気のあるオーストラリア人の作家には、ピーター・キャリー(Peter Carey)、コリーン・マッカーラー(Colleen McCullough)、サリー・モーガン(Sally Morgan)、ティム・ウイントン(Tim Winton)、トム・ケナリー(Tom Keneally)およびブライス・コートネー(Bryce Courtenay)等が挙げられます。

ジュディス・ライト (Judith Wright) (1915 – 2000年)

ジュディス・ライトは卓越した詩人であり、自然保護論者およびアボリジニの権利運動家でもありました。彼女はその詩で、オーストラリアやその人々に対する自らの愛情を表現しました。彼女は、エンサイクロペディア・ブリタニカ文学賞、女王陛下のゴールドメダル(詩部門)を初めとする数々の賞を受賞しました。また彼女はオーストラリア自然保護委員会とアボリジニ条約委員会の委員でもありました。

ジュディス・ライトは、詩人としての才能、そしてオーストラリアの文学界と、社会・環境面における改革の推進者として人々の記憶に残っています。



演劇および映画

オーストラリアの演劇、映画、そして映画人は国内外で高い評価を得ています。ケイト・ブランシェット(Cate Blanchett)、ジェフリー・ラッシュ(Geoffrey Rush)、ニコール・キッドマン(Nicole Kidman)およびヒュー・ジャックマン(Hugh Jackman)といったオーストラリア人の俳優やピーター・ウエアー(Peter Weir)やバズ・ルアマン(Baz Luhrmann)等の映画作家は映画における功績がたたえられ、国際的な賞を数々受賞しています。

ビジュアルアート

最も広く知られるオーストラリアの芸術作品は、アイコンとなっている、伝統的な先住民の絵画およびトム・ロバーツ(Tom Roberts)、フレデリック・マッカビン(Frederick McCubbin)およびアーサー・ストリートン(Arthur Streeton)等に代表される19世紀の画家によるブッシュの風景を描いたものです。20世紀半ばにはラッセル・ドライズデール(Russell Drysdale)、シドニー・ノーラン(Sidney Nolan)が大胆な色使いでアウトバックの厳しさを描きました。より最近では、ブレット・ウィットリー(Brett Whiteley)がその独特で鮮やかなスタイルで国際的な名声を得ました。アルバート・ナマジラ(Albert Namatjira)、エミリー・カーメ・ウングワレー(Emily Kame Kngwarreye)、グローリア・ペトヤール(Gloria Petyarre)、ローバー・トーマス(Rover Thomas)とクリフフォード・ポッサム・トジャポルトジャリー(Clifford Possum Tjapaltjarri)などの先住民アートは、ますますオーストラリアや海外で人気が高まっています。

音楽とダンス

聴いてすぐにわかるオーストラリアの音はアボリジニの古代の楽器であるディジェリドゥーの音です。

オーストラリア人はあらゆる分野の音楽を受け入れ、素晴らしい成果を収めてきており、クラシック、カントリー、ロックミュージックといった分野への貢献によっても国際的に認められています。

有名なオーストラリアのミュージシャンには、カイリー・ミノグ(Kylie Minogue)、ジミー・バーズ(Jimmy Barnes)、ポール・ケリー(Paul Kelly)、オリビア・ニュートンジョン(Olivia Newton-John)、ジョン・ファーンナム(John Farnham)、ニック・ケイブ(Nick Cave)、先住民族のアーティストである、アーチャー・ローチ(Archie Roach)、グルラム(Gurrumul)、ジェシカ・マウボーイ(Jessica Mauboy)などがいます。AC/DCやINXSなどのオーストラリアのバンドは、世界中でサポーターを獲得しています。

オーストラリアのダンスは、サー・ロバート・ヘルプマン(Sir Robert Helpmann)、メリル・タンカード(Meryl Tankard)、スティーブン・ペイジ(Stephen Page)およびリー・シュインシン(Li Cunxin)等の偉大なダンサーと振付家の功績により見事に開花しました。バンガラ(Bangarra)は、アボリジニおよびトレス海峡諸島の舞踏団であり、ダンス、サウンドスケープ、音楽、デザインの独特のスタイルで全国的にも世界中でも高く評価されています。

科学での功績と発明

オーストラリア人は、医学、技術、農業、鉱業、製造業といった分野での輝かしい科学的功績を有しています。

多くのオーストラリア人が科学および医学的発見によりノーベル賞を受賞しています。

科学に貢献した人々には、オーストラリアン・オブ・ザ・イヤー賞も授与されています。2005年、同賞は火傷の被害者のためのスプレー式皮膚を開発したフィオナ・ウッド教授(Professor Fiona Wood)の手に渡りました。2006年には子宮頸癌のワクチンを開発したイアン・フレイザー教授(Professor Ian Frazer)が受賞しています。2007年には環境科学者の第一人者であるティム・フラネリー教授(Professor Tim Flannery)が受賞しています。

ウッド教授(Professor Wood)とフレイザー教授(Professor Frazer)は共に英国からオーストラリアに移住してきました。フレイザー教授(Professor Frazer)の共同発明者は中国から移住し、後にオーストラリア市民となった故ジャン・チョウ博士(Dr Jian Zhou)です。

フィオナ・ウッド医師AM(Professor Fiona Wood AM) (1958年生)

ウッド医師はオーストラリアで最も革新的かつ尊敬されている外科医および研究者です。彼女は非常に優れた形成外科医および再建外科医であり、世界でも先端を行く火傷の専門家です。そして火傷の治療のための研究および技術開発の先駆者です。

2002年に起きたバリでの爆破事件の被害者の治療の功績により、ウッド医師は2003年にメンバー・オブ・ザ・オーダー・オブ・オーストラリアの一員となりました。2005年に火傷の治療に対する貢献が認められ、彼女がオーストラリアン・オブ・ザ・イヤーに指名されました。



フレッド・ホロウズ教授 (Professor Fred Hollows)(1929 – 1993年)

フレッド・ホロウズ教授は情熱溢れる眼科医で、オーストラリアおよび開発途上国の数々において百万人以上の視力回復に貢献しました。フレッド・ホロウズはニュージーランドで生まれました。1965年にオーストラリアに移り、後にシドニー病院の眼科長となりました。

同氏は全ての人々の平等を固く信じ、最初のアボリジニ向け医療サービスを設立し、オーストラリア全国にその多くがあります。

1980年までにはフレッドは世界中を旅して、途上国で眼の健康に関するプログラムの開始に努めてきました。彼は1989年4月にオーストラリア市民となっています。

ホロウズ教授の慈善事業はフレッド・ホロウズ・ファンデーション(Fred Hollows Foundation)を通じて続けられています。



オーストラリアン・オブ・ザ・イヤー

1960年以降、オーストラリアン・オブ・ザ・イヤー賞は、優秀なオーストラリア人の業績と貢献を讃えてきました。同賞には誰でも、どのような身分のオーストラリア人でもノミネートすることができます。

オーストラリアンズ・オブ・ザ・イヤー賞の受賞者は、卓越した業績を残し、この国に奉仕した人々です。彼らは私たちに刺激を与え、より良いオーストラリアの創造に私たち自身の貢献をするように挑戦します。

同賞には、ヤングオーストラリアン・オブ・ザ・イヤー、シニアオーストラリアン・オブ・ザ・イヤー、オーストラリアズ・ローカルヒーローの部門が含まれています。

現在および過去の受賞者のリストはwww.australianoftheyear.org.auでご覧になれます。

ジェームス・ミキ医師AM (James Muecke AM)

眼科外科医および失明予防先駆者
2020年オーストラリアン・オブ・ザ・イヤー

ミケ医師は研究、教育、インフラ、パートナー国におけるトレーニングを通して、失明を排除することを目的とした慈善団体、サイト・フォー・オールの共同創設者です。

ミケ医師は、失明は人権問題であると考えており、誰もが視覚がある世界を作るために取り組んでいます。



ミシェル・シモンズ教授 (Michelle Simmons) (1967年生)

量子物理学の教授
2018年オーストラリアン・オブ・ザ・イヤー

シモンズ教授は、原子エレクトロニクスおよび量子計算の先駆者です。彼女が「コンピュータ時代の宇宙競争」と呼ぶところの最先端において、シモンズ教授は通常何千年もかかる問題を数分で解決する、量子コンピューターを作ることを目指しています。このような発見は、薬品設計、天気予報、自動運転車両、人口知能などに革命を引き起こす可能性があります。

2018年には、シモンズ教授は量子情報科学での成果およびその献身的な姿勢を称えて、オーストラリアン・オブ・ザ・イヤーに指名されました。2019年には、彼女は量子学および原子エレクトロニクスにおけるリーダーとしての科学の教育に対する際立った貢献、そしてロールモデルとしての役割を認識され、オーダー・オブ・オーストラリアの一員に任命されました。



オーストラリアの通貨

オーストラリアの通貨には、国にとって重要な人々や象徴が描かれています。

通貨に描かれるために選ばれた著名なオーストラリア人達は社会改革、科学、政治、軍事業績、芸術の分野における先駆者であり、偉大な才能を開花させた人々です。

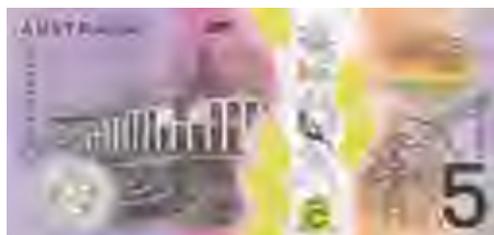
エリザベス二世女王年(Queen Elizabeth II) (1926～2022年)

エリザベス二世女王はオーストラリアの国家元首でした。彼女はオーストラリアおよび英国の女王でした。彼女は長く人気の高い在位期間を通じて、強力かつ安定した存在であり続けました。



国会議事堂と前庭のモザイク

国会議事堂の概略図は、国会議事堂建設局によって提供された設計開発景観計画に基づいています。前庭のモザイクは、「ポッサム・アンド・ワラビー・ドリーミング」というタイトルのマイケル・ネルソン・ジャガマラ(Michael Nelson Jagamara)による中央砂漠のドットスタイルの絵画に基づいています。



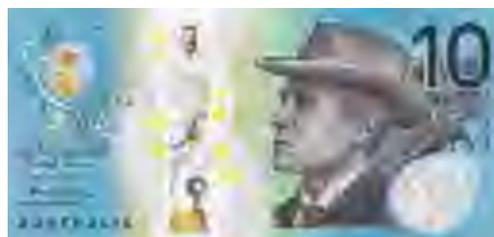
デйм・メアリー・ギルモア (Dame Mary Gilmore) (1865 – 1962年)

デйм・メアリー・ギルモアは作家、ジャーナリスト、詩人、そして社会改革の運動家でした。彼女はその執筆作品と女性や貧しい人々、アボリジニおよびトレス諸島民の人々の代弁者として有名です。



AB「バンジョー」パターソン (AB 'Banjo' Paterson) (1864 – 1941年)

アンドリュー・バートン・パターソンは詩人、作詞家、そしてジャーナリストでした。彼は「バンジョー」パターソンの名前で曲を書き、特にオーストラリアでは最も有名なフォークソングでもある「ワルチングマチルダ」の作者として知られています。



ジョン・フリン牧師(Reverend John Flynn) (1880 – 1951年)

ジョン・フリン牧師は、世界初の空路を利用した医療サービスであるオーストラリアのロイヤルフライングドクターサービスの創設者です。オーストラリアの僻地に医療サービスを運んで多くの命を救ったことで人々に覚えられています。



メアリー・レイビー(Mary Reibey)(1777 - 1855年)

メアリー・レイビーはニューサウスウェールズ植民地における女性事業者の草分け的存在でした。10代の時にオーストラリアに囚人の入植者として訪れた後、コミュニティで尊敬を集めるリーダーとなりました。



エディス・コーワン(Edith Cowam) (1861~1932年)

エディス・カーワンは、ソーシャルワーカー、政治家、フェミニストでした。またオーストラリアの議会では初の女性議員となりました。



デイビッド・ユナイポン(David Unaipon) (1872 - 1967年)

デイビッド・ユナイポンは、作家、パブリックスピーカー、そして発明家でした。彼は科学と文学での功績とアボリジニおよびトレス諸島民の人々の生活水準の向上に貢献したことで有名です。



サー・ジョン・モナシュ(Sir John Monash) (1865 - 1931年)

サー・ジョン・モナシュはエンジニアおよび行政官であるとともに、偉大な軍人でもありました。そのリーダーシップと知性そして雄弁さで名を残しました。



デイル・ネリー・メルバ(Dame Nellie Melba) (1861~1931年)

デイル・ネリー・メルバは世界的に著名なソプラノ歌手です。世界中で「歌の女王」の名で親しまれてきました。彼女は世界的名声を得たオーストラリア初の歌手です。



国民の休日と祝賀

オーストラリアの祝日は、ヨーロッパの開拓以来の私たちの歴史のお祝いとマイルストーンを反映しています。

毎年日にちの決まった休日

- **1月1日の新年**は、新年度の始まりを祝います。
- **1月26日のオーストラリアの日**は、オーストラリア人であることの意味を振り返り、現代オーストラリアを祝い、私たちの共通の歴史を認めるときです。この日は、1788年に第一船団がシドニー湾に到着した記念日です。
- **4月25日のアンザックデー**は、第一次大戦中にオーストラリア・ニュージーランド連合軍(Australian and New Zealand Army Corps)がガリポリに上陸した記念日です。戦争、紛争、平和維持活動に従事して命を落としたオーストラリア人たちがすべてが払った犠牲に敬意を表する厳粛な日です。また、全軍人の勇気と努力にも敬意を表し、戦争が持つ多くの意味を反芻します。
- **12月25日のクリスマス・デー**は、イエス・キリストの誕生を祝うキリスト教の祝祭日であり、贈り物の交換をする日です。
- **12月26日のボクシングデー**はクリスマスのお祝いの一環です。

年によって日にちが変わる祝祭日

- **レーバーデーもしくはエイトアワーデー**は、一日8時間労働を獲得した（世界初）オーストラリアの労働者を祝う日です。
- **イースター**はイエス・キリストの死と復活を記念する日です。
- **キングズバースデー**は、オーストラリアの国家元首であるチャールズ三世の誕生を祝う日です。西オーストラリア州とクイーンズランド州を除く全ての州とテリトリーで、6月の第二月曜日に祝います。

その他の休日

他にも州、テリトリー、都市によって定められている休日があります。例えばオーストラリア首都特別地域ではキャンベラデー、南オーストラリア州ではボランティアーズデー、西オーストラリア州ではファウンデーションデーが設けられています。

その他の重要な日付（祝日以外）

- **ハーモニーウィーク**は3月21日を含む週に開催され、私たちの文化の多様性を祝います。
- **9月17日のオーストラリア市民の日**は、オーストラリアの市民権に代表される共通の絆を祝う日であり、私たちが国の未来を形作る上で果たす役割を振り返ります。
- **5月27日～6月3日の国民和解週**は、団結と相互尊重を擁護することで、より公正で平等な国に向けて努力する週間です。

オーストラリアの人々

私たちの社会は世界でも最も多様な社会のひとつとなっています。人口の約3%がアボリジニおよび/またはトレス海峡諸島民であると考えています。オーストラリアの居住者の4分の1以上は海外で出生しており、移住者の出身国は200カ国以上に及んでいます。人口の多様性によりオーストラリアには様々な種類の言語、信念、伝統、文化がもたらされています。

イギリス連邦のメンバーとして、オーストラリアはまだイギリスと密接な関係があります。

オーストラリアの人々は、オーストラリアの市民権に誇りを持っています。これは、私たちの多様な社会における重要な統一の絆です。オーストラリア市民の日は毎年9月17日に祝われます。これは、すべてのオーストラリアの市民たちが自分の国を構築し、その将来を形作る上で演じる役割を反映するための日です。

オーストラリアの経済

オーストラリアには、競争力の高い安定した経済があり、活気あふれる技能の高い労働力は尊重されています。オーストラリア人は世界でも最高水準の生活を謳歌しています。

ディック・スミス (Dick Smith) (1944生)

ディック・スミスはオーストラリアの事業家、冒険家であり、慈善家でもあります。ディック・スミスは家電事業でまずその富を築き、その富をオーストラリアを前進させるために費やしてきました。彼はオーストラリア産のみを取り扱う食品会社を立ち上げ、オーストラリア所有の会社を今後もオーストラリア人経営の下で継続できるように数百万ドルもの投資を行ってきました。

彼は1986年にオーストラリアン・オブ・ザ・イヤー賞に推薦され、技術進歩と環境保護に対する功績を認められて受賞しました。彼は熱気球でオーストラリア横断とタスマン海横断を果たした最初の人物でもあります。その冒険精神と事業での成功、さらに愛国主義で知られています。



市場

オーストラリアの安定した現代的な金融制度と税金および商取引規制により、事業活動には確実性がもたらされています。ツーリズム、教育、金融サービス等のサービス産業は、オーストラリアの国民総生産(GDP)のかかなりの割合を占めています。

国内経済の安定性のおかげでオーストラリアは魅力的な投資先となっています。オーストラリアの株式市場は、アジア太平洋地域で最大の市場の一つです。

貿易

オーストラリアの最大の貿易相手国は、中国、日本、米国、韓国、シンガポール、インド、ニュージーランドと英国です。オーストラリアの主な輸出品は、石炭、鉄鉱石、天然ガス、および教育や観光サービスです。オーストラリアの経済は開放的であり、貿易は国の経済的繁栄において常に重要な貢献をし続けてきました。

鉱業

オーストラリアは石炭、銅、液化天然ガス、鉱物砂等の天然資源が豊かです。このような天然資源は、世界中で高い需要があります。

世界市民としてのオーストラリア

オーストラリアは善良な国際市民としてのその役割を誇りとしています。そして自国ほど恵まれていない国々に援助を提供することでその役割を果たしています。

国際援助および人道的努力

オーストラリア政府による国際援助プログラムは、開発途上国が貧困を減らし、維持可能な開発を達成するための援助を行います。人々や政府に手を貸すことで、近隣地域と世界において援助を提供しています。

オーストラリアの人々は、国内外で災害が発生した時に大なる寛大さを示します。また、個人的な寄付やオーストラリアの援助プログラムを通して、長期にわたって苦難している国々にも定期的に寄付を行っています。

2018年には、リチャード・ハリス博士とクレイグ・チャレン博士は、タイの浸水した洞窟から12人のティーンエイジャーおよびサッカーのコーチを救助した努力として、「Star of Courage」という、オーストラリアで2番目に高位の高い勇気を称える勲章、および「Medal of the Order of Australia (OAM)」を授与されました。

国際フォーラムの場におけるオーストラリアの積極的参加

オーストラリアは1945年の設立時から国際連合(UN)の活発なメンバー国であり続けてきました。1951年の国連難民条約の下で難民と認定される人々に対し、オーストラリアは保護を提供します。オーストラリアはまた、UNの平和維持活動や途上国への人道的および緊急対応にも貢献しており、国連科学教育機関にも積極的に参加しています。

1971年、オーストラリアは経済協力開発機構(OECD)の正式メンバーとなりました。OECDは、世界貿易を拡大しながら、世界中の人々の経済的・社会的福祉を改善することを目的としています。

オーストラリアはアジア太平洋地域での密接な協力を強く支持しています。オーストラリアはアジア太平洋経済協力会議、東アジア首脳会議、および太平洋諸島フォーラムの活発なメンバー国です。東南アジア諸国連合の対話国であり、その地域フォーラムに参加しています。

キャサリン・ハムリン医師AC (Dr Catherine Hamlin AC) (1924～2020年)

婦人科医のキャサリン・ハムリン医師は、エチオピアの若い女性達を生涯にわたる苦悩から救ったことで有名です。1959年以降、ハムリン医師はエチオピアのアディスアベバにて「産科フィスチュラ」として知られる、分娩による傷害を持つ女性達を助けてきました。この内臓損傷を受けた女性達は、身体機能を管理することができずに、屈辱の中で生き、そのため社会から見放されていました。

ハムリン医師とその夫はアディスアベバ・フィスチュラ病院を開設しました。ふたりの努力により、何千人もの女性達が自分たちの家に戻り、健康で満足な生活ができるようになったのです。

1995年、ハムリン医師は、オーストラリアでは最高の栄誉である「Companion of the Order of Australia」を授与されました。



オーストラリアのノーベル賞受賞者

オーストラリアは、科学および医学の研究において高い評価を得ています。以下のオーストラリア人はこれらの分野でノーベル賞を受賞しています。

- **物理学者のウィリアム・ブラッグ教授(Professor William Bragg) (1862~1942)およびローレンス・ブラッグ(Lawrence Bragg) (1890~1971)**
ウィリアム・ブラッグ(父)とローレンス・ブラッグ(息子)は、「X線技術による結晶の構造分析における功績」のために1915年のノーベル物理学賞を共同受賞しました。
- **病理学者のサー・ハワード・フローリー(Sir Howard Walter Florey) (1898~1968)**
南オーストラリア、アデレード生まれのハワード・フローリーは、1945年に「ペニシリンと各種伝染病への治療効果の発見」でノーベル生理学・医学賞を(共同)受賞しました。
- **医学者および生物学者のサー・マクファーレン・バーネット(Sir Frank Macfarlane Burnet) (1899~1985)**
ビクトリアで生まれたフランク・バーネットは1960年に「免疫寛容現象についての考察で」ノーベル生理学・医学賞を(共同)受賞しました。
- **生理学者のサー・ジョン・カリュー・エクルズ(Sir John Carew Eccles) (1903~97)**
メルボルン生まれのジョン・エックルズは、「神経細胞膜の末梢および中枢部における興奮と抑制に関するイオン機構の発見」で1963年にノーベル生理学・医学賞を(共同)受賞しました。
- **物理学者および生物物理学者のサー・バーナード・カッツ(Sir Bernard Katz) (1911~2003)**
ドイツで生まれのバーナード・カッツは1941年にオーストラリアの市民になりました。彼は「神経終末の体液性伝達物質とそれらの貯蔵、放出、不活性化のメカニズムに関する発見」で1970年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。
- **化学者のジョン・ワーカップ・コンフォース教授(Professor John Warcup Cornforth) (1917~2007)**
シドニー生まれのジョン・コンフォースは、「酵素による触媒反応の立体化学に関する研究」で1975年にノーベル化学賞を(共同)受賞しました。
- **免疫学者のピーター・ドハーティー教授(Professor Peter Doherty) (1940年生まれ)**
クイーンズランド生まれのピーター・ドハーティー教授は、「細胞性免疫の特異性に関する研究」で1996年にノーベル生理学・医学賞を(共同)受賞しました。
- **消化器専門医バリー・マーシャル教授(Professor Barry Marshall) (1951年生まれ)および病理学者のロビン・ワレン医師(Doctor Robin Warren) (1937年生まれ)**
バリー・マーシャルとロビン・ウォレンは、「ヘリコバクター・ピロリ菌の発見と消化性潰瘍における役割」の発見で2005年にノーベル生理学・医学賞を共同受賞しました。
- **生物学者のエリザベス・ヘレン・ブラックバーン教授(Professor Elizabeth Helen Blackburn) (1948年生まれ)**
ホバート生まれのエリザベス・ブラックバーンは、「テロメア構造と酵素テロメララーゼが染色体を保護する方法についての発見」で2009年にノーベル生理学・医学賞を(共同)受賞しました。
- **天文学者のブライアン P シュミット教授(Professor Brian P. Schmidt) (1967年生まれ)**
ブライアン P シュミットは、「遠くの超新星の観測を通して宇宙の加速拡大を発見する研究」で2011年にノーベル物理学賞を(共同)受賞しました。

次のオーストラリア人がノーベル文学賞を受賞しました。

- **小説家および脚本家のパトリック・ホワイト(Patrick White) (1912~90)**
ロンドンでオーストラリア人の両親のもとに生まれたパトリック・ホワイトは、1973年に「文学に新大陸をもたらした叙事詩と心理的文学」によりノーベル文学賞を受賞しました。



パート6

オーストラリアの 道のり

オーストラリアの道のり

オーストラリアの道のりは多くの人々や出来事によって形作られてきました。

アボリジニとトレス海峡諸島民

オーストラリアに最初に居住したのはアボリジニとトレス海峡諸島民であり、世界で最古の継続文化および伝統の持ち主です。

考古学的記録は、アボリジニの人々がオーストラリアに65,000～40,000年前に到着したことを示しています。しかし、アボリジニの人々は、彼らがこの土地の創造物語の中心であると信じており、彼らの創造物語は世の初めから始まります。

アボリジニおよびトレス海峡諸島民は今日でもなお彼らを導くような古い信条や伝統を共有しています。彼らは土地と深い絆をもっており、その絆は物語、文化、アートや舞踊などの題材となっています。

言語

英国による入植開始前はアボリジニとトレス海峡諸島の人々によってオーストラリアでは700以上の言語と方言が使用されていました。これらの言語のうち100以上が現在でも使用されていますが、いまだに子供に受け渡されているものは20未満に過ぎません。先住民文化の口述歴史は、先住民と土地の説話を伝えているため、非常に重要なものです。

ザ・ドリーミング

ドリーミングは西洋の用語で、先住民の生活を導く知識、信仰、実践のシステムを表すためによく使われます。

ザ・ドリーミングの物語は、親や長老たちから子供達へと語られます。こうした物語によって子供達は、自分たちの土地がいかに形作られそこに人が宿るようになったかを学びました。物語はまた、ブッシュ（奥地）で食べ物を見つける方法等貴重な実用的レッスンを子供達に教えました。

ドリーミングの物語は、音楽、歌および踊りで語られます。アボリジニやトレス諸島民の人々が歌や踊りに興ずる時は、自分たちの先祖への深遠なまでのつながりを感じます。

先住民元来のアートは、岩面の彫刻や絵画と地面に描かれた模様でした。オーストラリア中央部の人々は、ザ・ドリーミングの土地や説話を表す、点、円および特定の文化的シンボルによる絵を描きました。それに対して、オーストラリア北部の部族は人間、動物および精霊の姿を絵にしていました。

ザ・ドリーミングは今日でもアボリジニの人々にとって重要であり続けています。



カカドゥのアボリジニアート

オーストラリアの最初のヨーロッパ人

初期のヨーロッパ人による探検

17世紀、ヨーロッパの探検家達は南にある未知の大地、「テラ・アウストラリス・インコグニタ」と呼ばれる場所を見つけました。1606年、オランダ人のウィレム・ヤンツが(Willem Janszoon)オーストラリア北端のケープヨーク半島(Cape York Peninsula)の西側に上陸しました。これとほぼ時を同じくしてルイス・バエス・デ・トレス(Luis Vaez de Torres)が率いる船が海峡を通過してオーストラリア北部へ航海しました。

1600年代のその後、オランダの海員達が西オーストラリア海岸を探索し、その土地を「ニューホーランド」と名付けました。

1642年、アベル・タスマン(Abel Tasman)が新大陸(今のタスマニア)の海岸を発見し、「バン・ディーメンズ・ランド」と名づけました。タスマンはさらに数千マイルに渡るオーストラリアの海岸の地図を作製しました。タスマンの不完全なニューホーランドの地図から、彼はオーストラリアがパプアニューギニアと北部で地続きになっていると信じていたことが伺えます。

ウィリアム・デンピアー(William Dampier)は、オーストラリアの地に足を踏み入れた最初の英国人です。1684年、彼は北西部海岸に上陸しました。その土地は乾いて埃っぽかったので、貿易や入植には不向きであると考えました。



アベル・タスマンによるニューホーランドの地図、1644年

キャプテン・ジェームズ・クック (Captain James Cook)

オーストラリアの東海岸は1770年に英国人であるジェームズ・クックが上陸するまでは、ヨーロッパ人による探検は行われていませんでした。クックはイギリス政府の要請によって南太平洋発見の航海に出ているのです。彼は東海岸の地図を作り、現在のシドニー南部にあたるボタニー湾(Botany Bay)に彼の船であるエンデバー号(Endeavour)を停めました。ジェームズ・クックはこの地を「ニューサウスウエールズ」と名付け、キング・ジョージ三世(King George III)のために土地の権利を主張しました。

囚人の移送

オーストラリアは、最初のヨーロッパ人入植者のほとんどが囚人であった点で独特であるといえます。米国が独立した後、英国はもはや囚人を米国に送ることは出来なくなり、英国の刑務所は混雑を極めるようになりました。1786年、英国は囚人の一部を新植民地であるニューサウスウエールズへ送ることを決定しました。

最初の植民地

植民地ニューサウスウエールズの最初の総督はアーサー・フィリップ船長(Captain Arthur Phillip)でした。1788年1月26日、彼は11隻の「第一船団」を英国から地球の裏側のシドニー湾に無事に航海させました。私たちが毎年、オーストラリアデーとして祝うのはこの日を記念してのことです。

入植初期

入植の初期は非常に厳しい時代でした。フィリップ総督は、人が飢餓で亡くなることのないようにと、自分と軍士官も含む植民地の全員への配給を同じものにしました。植民地がこうした初期の厳しい数年間を乗り越えられたのは、彼の良識と決断力に負うところがあります。

囚人は初期の植民地で一生懸命働きました。刑期を果たした囚人達は自由の身となり、一般社会に参加して仕事を見つけ、家庭を築きました。



第一船団は英国から航海後、1788年にシドニー湾に到着

新たな機会

オーストラリアにおける最初のヨーロッパ系人口は主に、イギリス人、スコットランド人、ウェールズ人およびアイルランド人で構成されていました。スコットランド人、ウェールズ人およびアイルランド人は、過去イギリス人との戦争を繰り返していましたが、オーストラリアではこれら四つのグループは親しく生活と労働を共にしました。

囚人と元囚人たちはこの植民地で新しい機会を見つけ始めました。まもなく、元囚人たちの中には、商人として自分の商売を始める者も出てきました。その他の元囚人は農家、職人、店や飲み屋の店主として成功しました。

キャロライン・チザム (Caroline Chisholm) (1808~1877年)

キャロライン・チザムは、社会改革者の第一人者で、入植初期の独身女性の生活改善に尽くしました。彼女は陸軍士官であった夫と五人の子供とともに1838年にオーストラリアにやってきました。彼女はシドニーの道ばたで暮らしていた移住者の女性達に手を差し伸べました。数年の間に植民地一帯に16軒の移民女性用ホステルを開きました。

キャロラインは、植民地への輸送船に乗った人々の生活改善に力を尽くしました。彼女はまた、依存と貧困のサイクルを断ち切るために貧窮者向けローン計画も始めました。

今日オーストラリアには、キャロライン・チザムにちなんで名付けられた学校が多くあります。彼女は「移民の友」として知られ、人々が新たな生活を始めるのを助けるため不断の努力をしたことで知られています。



マッコリー総督(Governor Macquarie)

フィリップ総督と並び、ラクラン・マッコリー総督(Governor Lachlan Macquarie)もオーストラリア早期の歴史において重要な位置を占めています。彼は1810年から1821年までニューサウスウェールズ植民地の総督を務め、流刑地としてではなく、自由な植民地として開拓しました。彼は農業慣行を改善し、新しい道路と公共施設を建設し、オーストラリアの探検を奨励しました。

マッコリー総督は教育にも資金を費やし、元囚人の権利も尊重しました。マッコリーはまた教育に資金を費やし、元囚人達の権利を尊重し、一部の元囚人には裁判官や公務員としての職をも与えました。

マッコリー総督は植民地の改善に貢献したとして歴史上讃えられています。ニューサウスウェールズ州のマッコリー大学は彼にちなんで名付けられています。

囚人としての伝統

総督の地位は一人の人物にはあまりにも強力なものであるとして、1823年に次期総督に助言を与え、植民地を改革するためのニューサウスウェールズ立法審議会が設立されました。

英国は1840年にニューサウスウェールズへの囚人の移送を、また1852年と1868年にはそれぞれタスマニアと西オーストラリアへの移送を中止しました。総計16万名以上の囚人がオーストラリアに移送されました。元囚人と自由入植者の隔たりは徐々に消え失せました。1850年以降、植民地は自治を行い、立派な社会の建設を望んでいました。多くのオーストラリア人は彼らの囚人として歴史を誇りに思うようになりました。

ヨーロッパ人による入植の後のアボリジニとトレス海峡諸島民

1788年のヨーロッパ人入植の開始時には、オーストラリアに75万から140万人のアボリジニやトレス海峡諸島の人々がいたと推測されています。この数字には、約250の個々の民族と700以上の言語グループが含まれていました。

オーストラリア入植開始当時、英国政府はアボリジニの人々と条約は結びませんでした。イギリス当局は、彼らが合法的に土地を占領する権利があると信じていました。

アボリジニとトレス海峡諸島の人々は自分たちの経済があり、古代から土地との永続的な繋がりを保っていました。彼ら自身の支配下で生活していたところ、今や新参者の法律を受け入れることを余儀なくされました。新規参入者は招かれず、一般的に歓迎されませんでした。

アボリジニとトレス海峡諸島の人々の生活は、英国からの入植者の到着により、かなりの変化がもたらされました。植民者が新しい社会的、経済的、宗教的秩序を課そうとしたため、命が失われ、土地が奪われた。新しい動植物および病気が登場しました。

初期の総督たちはアボリジニの人々に害を与えないようにと言われていましたが、英国の入植者達はアボリジニの土地に侵入し、多くのアボリジニの人々が殺害されました。入植者達はこうした罪を犯しても通常は罰せられることはありませんでした。

中にはアボリジニの人々とヨーロッパの入植者達が平和的に共存しているところもありました。入植者の中には羊や牛の放牧場でアボリジニの人々を雇う人もいました。マッコーリー総督は、農業用にアボリジニの人々に独自の土地を提供し、アボリジニの子供達のための学校を設立しました。しかし、アボリジニの人々は自分たちの文化的伝統を失いたくなかったため、入植者と同じ様式の生活を望む者はほとんどいませんでした。

土地を巡っての紛争で多くのアボリジニの人々が命を落としました。正確な数は不明ですが、数十万のアボリジニの人々が死亡したと推定されています。さらに多くのアボリジニの人々が、ヨーロッパ人がこの国に持ち込んだ疫病から死亡しました。アボリジニの生命の喪失は壊滅的でした。

歴史的出来事

内陸部の探検

ニューサウスウェールズにおいて、初期の入植者達は極度の苦境に直面しました。アボリジニおよびトレス諸島民の人々は、このような乾燥した環境に適応して生活する術を身につけていましたが、彼らも干ばつの時期には多大な被害を受けました。

ブルーマウンテン（シドニーの西へ約50キロ）は、シドニーの初期内陸探検家に大きな課題を提起しました。1813年、グレゴリー・ブラックスランド(Gregory Blaxland)、ウィリアム・チャールズ・ウェントワース(Charles Wentworth)、ウィリアム・ローソン(William Lawson)の3人がようやくこの山脈を越えました。ブルーマウンテンズを横切る道路や鉄道は今でもこのルートを使っています。

山脈を越えると、羊や牛の放牧に適する広々とした良好な土地が広がっていました。さらに内陸部は、乾燥した砂漠の土地に出くわしました。

ヨーロッパの探検家は水が見つからず、生き残るための食べ物を十分に運ぶこともできませんでした。ドイツ生まれの探検家ルドウィヒ・ライカート(Ludwig Leichhardt)は1848年、大陸東西横断中に行方不明になりました。

1860年、ロバート・オハラ・バーク(Robert O'Hara Burke)とウィリアム・ジョン・ウィルズ(William John Wills)大陸南北縦断をめざしてメルボルンを出発しました。彼らは大人数での探検隊を率いていましたが、それでも縦断の道のりは大変厳しいものでした。バークとウィルズは経験豊富なブッシュマンではありませんでした。彼らはアボリジニのヤンドウルワンダ(Yandruwandha)族の人々から助けを受けましたが、2人とも帰路途中で死亡しました。彼らは冒険を完了することはできませんでしたが、彼らの話は芸術や文学によって今でも伝わっています。この土地の苛酷さを表す悲劇的の一例です。



入植者と開拓者

たとえ良好な土地に恵まれたとしても、開拓者たちの暮らしは厳しいものでした。干ばつや洪水の後、入植者達は生計を失い、農夫たちは一からやり直さざる終えないことがしばしばありました。人は苦しいながらも自らを励まし何とか生活を続けます。「オージーバトラー」という用語は、オーストラリア人の闘争精神と回復力を象徴しています。開拓者はこうした至難の時期を生き抜いた勇気をもって尊敬の対象となっています。女性は夫が留守の間や死別後、商売や農場のやりくりをせざるをえなかったこともよくありました。

オーストラリアのメイトシップの精神が生まれたのは初期の苛酷な時代のことでした。この精神はアウトバックを旅し、羊の毛を刈る仕事や家畜を牧場や市場へ追う仕事に従事した男性労働者の中で強く培われるようになりました。また入植者たちは困っている時にはお互いに助け合っていました。この伝統は今でもオーストラリアにおける根強い伝統です。

ゴールドラッシュ

1851年初期のNSWでの金の発見は、「国を一変させた発見」と言われています。その後間もなく、金は新しく独立した植民地であるビクトリア植民地でも発見されました。

1852年の末までにはオーストラリア各地と世界各地から金を探しに9万もの人々がビクトリアにやってきました。

ユリーカ(Eureka)の反乱は、オーストラリアの歴史で民主主義を象徴する一大事件として覚えられています。当時政府の軍隊は、金採掘許可料を徴収する際に、金鉱夫達に対して非常に厳しい姿勢をとっていました。1854年11月11日、バララット(Ballarat)のベーカリーヒルに(Bakery Hill)1万人もの人々が基本的民主権の設立趣意書を求めて集い、高価な金採掘許可料の排除およびビクトリア州議会に代表者を投票する権利などを求めました。

これに続いて、「ユーレカストックエード」はユーレカ掘削で建設されました。ここで、坑夫たちは反逆の旗（サザンクロスを特徴とする）にかけて誓い、協力し、お互いの権利と自由を守るために戦いました。政府官吏たちは1854年12月3日の朝、砦柵を攻撃するために兵士を送り込みました。短い戦闘の後、金鉱夫たちはまもなく取り押さえられ、約30名が死亡しました。

反乱のリーダー達は国家に対する大逆罪で起訴されましたが、彼らを有罪とする陪審員はいませんでした。王立調査委員会は政府のあやまちを認め、政治代表者を選ぶことを含め、鉱夫達の要求の多くが認められました。一年未満の内に反乱のリーダーであったピーター・レイラー(Peter Lalor)がビクトリア議会の議員になりました。



時の経過とともにユリーカの反乱は、抗議そして「フェア・ゴー」の信念を表す象徴となりました。

ゴールドラッシュはオーストラリアに多くの意味での変化をもたらしました。ゴールドラッシュの時代、先住民を含まない、オーストラリアの人口は1851年の4万3000人から1871年には170万人に増加しました。このように増加する人口をつなぐため、鉄道や電信施設が1850年代に初めて建設されました。

大規模な金鉱床が南オーストラリアを除く全ての植民地で発見されました。経済は繁栄し、金がオーストラリアの主要輸出品として羊毛に取って代わりました。1890年頃までにはおそらくオーストラリアは世界でも最高の生活水準を達成していました。

スクオーターと農夫

入植の初期、「スクオーター(squatters)」と呼ばれる無断定住者が農業用の広大な土地に住み着いていました。土地の代金を払っていなかったにも関わらず、スクオーター達は土地を自分のものと見なしていました。第一次ゴールドラッシュ終了後、スクオーター達から土地を取り返すための大きな紛争が政府との間に発生しました。

1860年代、政府はスクオーターの土地を労働者とその家族が農耕を行うために売却することを計画しました。しかしながら、スクオーター達はできる限りの土地を自分のものにしておこうとしました。

鉄道ができるまでは、農地が市場から離れていた新しい農家は、困難な環境に直面しました。都会で高賃金を稼ぐ機会に比べ、報酬の少ない過酷な農業生活は常に魅力のないものでした。

農業を楽にすることを目的とする農業機器の発明というオーストラリアの伝統は南オーストラリアで始まりました。例えば、切り株を飛び越える鋤であるスタンプ・ジャンプ・プラウ(1870年代)は、作物を植えるために簡単に荒地を整備することができます。

1800年代の移住

1800年代初頭には、イギリス人、スコットランド人、ウエールズ人およびアイルランド人が植民地の主要グループでした。オーストラリアの余暇の過ごし方、文化的活動、宗教上の実践は英国を反映したものでした。しかし少数ながらもヨーロッパやアジアからの移民の集団も存在していました。1800年代のヨーロッパからの移住者には、イタリア人、ギリシャ人、ポーランド人、マルタ人およびロシア人の他、ワイン製造に携わるフランス人入植者などもいました。これらのほとんどは職と富を求め若き男性か船を見捨てた元船乗りでした。

中国人のオーストラリア移住は1842年以降に開始し、金が発見されてから増えました。金鉱にはこうした人種間の緊張が生じ、それが時として1854年のベンディゴ(Bendigo)での暴動を初めとする反中国人の暴動へとつながりました。こうした人種間の緊張の結果、1855年にはビクトリアで、1861年にはニューサウスウェールズにて初めて移民制限が設けられました。

1850年代のゴールドラッシュ以降、多くの中国人は母国へ帰りました。この地に残った中国人の中には、水の乏しい地域で需要が非常に高かった青果類を扱う市場向け菜園業者になった人もいました。

1860年代以降は、オーストラリアのアウトバックへラクダを輸送手段として用いた「ラクダ列車」を営むためにイラン、エジプト、トルコから移住者がやってきました。彼らは同じような服装をして、共通の宗教であるイスラム教を信仰していたことから、インド人のラクダ乗りとともにまとめて「アフガン」と呼ばれることもありました。これらのラクダ乗りは「内陸部の開拓者」と見なされていました。

またクイーンズランドの砂糖・バナナ栽培業では、頻繁に非常に低い給与と悪条件のもとで、インド人および太平洋諸島人が働いていました。

1880年以降は、レバノンから労働者がオーストラリアに訪れました。その多くは生地および衣服業界に関与していたため、オーストラリアの地方ではレバノン人の家族が生地屋のほとんどを所有するようになりました。



オーストラリアのアウトバックの「アフガン」ラクダ乗り

アボリジニ保留地

アボリジニの人々と入植者の間における土地をめぐる初期の紛争後、アボリジニの人々は社会の端に追いやられた生活を余儀なくされていました。一部の人はアウトバックの羊や牛を扱う牧場で極わずかな賃金で働く人もいました。多くの場合、その賃金は払ってもらえませんでした。植民地の政府は、アボリジニの人々が生活できる保留地を設けましたが、そうした保留地ではアボリジニ達が伝統的な生活をすることは認められませんでした。たとえば、彼らは自由に狩りをしたり採取できませんでした。

1800年代後半、植民地の政府はアボリジニおよびトレス諸島民の人々の権利を剥奪しました。彼らはアボリジニとトレス海峡諸島民が住むことができる場所と彼らが結婚することができる人を制御しました。そして多くのアボリジニおよびトレス諸島民の子供を両親から離し、「白人」の家族や政府の孤児院に送りました。このような政策は20世紀半ばまで続きました。これらの「盗まれた世代」の問題は、多くのアボリジニおよびトレス海峡諸島民と他のオーストラリア人にとって深い悲しみの原因のままであり、2008年のオーストラリア議会において全国的な謝罪の対象となりました。

参政権

「婦人参政権論者(Suffragettes)」は、選挙での投票権を求めて運動を行った世界中の女性達を表す用語です。1880年代と1890年代には、それぞれの植民地に少なくとも参政権を求める団体がひとつは存在していました。婦人参政権論者達は何千人もの署名を集め、嘆願書を植民地の議会に提出しました。

1895年に南オーストラリアの女性達が選挙権および被選挙権を獲得しました。西オーストラリアでは1899年に女性の選挙権が認められました。

1902年、オーストラリアは、女性に国会での投票権と被選挙権を与えた最初の国家になりました。アボリジニおよびトレス諸島民の人々は1962年になるまで選挙権は与えられませんでした。

1923年、エディス・コーワン(Edith Cowan)は西オーストラリア議会選挙で当選し、女性初の議員となりました。1943年、エニッド・リヨン(Enid Lyons)はオーストラリア議会で初の女性議員となりました。

キャサリン・スペンス(Catherine Spence)(1825年～1910年)

キャサリン・スペンスは、作家、伝道師、フェミニストそして婦人参政権論者でした。彼女はスコットランドからオーストラリアに移住し、教科書の制作およびオーストラリアの生活についての小説を執筆して受賞歴を持っています。

彼女は家のない子供達を援助する団体の設立に貢献し、新しい幼稚園や公立の女子中・高等学校にも援助を行いました。

彼女は議会に立候補した最初の女性でした。多くの票を受け取ったものの、彼女は議席を獲得しませんでした。1891年には南オーストラリア女性参政権連盟の副会長になりました。

キャサリン・スペンスは、たとえ束縛が課されていた時代であっても女性が達成することのできる偉業の象徴となっています。



連邦

連邦各植民地は別々に発展を遂げてきましたが、19世紀後期までには国として共通の帰属意識が強くなりました。

19世紀末に向けて、植民地を統合する試みが2度なされました。1889年、サー・ヘンリー・パークス(Sir Henry Parkes)は新しく強固な国の形成を訴えました。1890年にはオーストラリア連邦の構想を話し合うため、オーストラリア・アジア連邦会合が開催されました。

その後しばらくしてから連邦に向けての動きが1893年に再燃しました。まず有権者が次の憲法制定会議への参加者を選びました。その後有権者が2回にわたるレファレンダムで、同会議が草案した憲法を受け入れるかどうかの投票を行いました。

英国政府はオーストラリア人の自治を認めました。1901年1月1日には、ニューサウスウェールズ州において連邦化運動を指導していた、エドモンド・バートン(Edmund Barton)がオーストラリア初の首相となりました。シドニーのセンテナル公園において、彼が先導する政府が大勢の人々の前で宣誓の上、就任しました。

オーストラリアは大英帝国内の国となりました。しかし、1931年までは防衛や外務に関する完全な権限を得ませんでした。1948年のオーストラリア市民権法まで、オーストラリア人は依然としてオーストラリア市民ではなくイギリスの臣下でした。国家としての意識は強くなったものの、英国に属しているという感覚はまだ根強く残っていました。



1901年のブリスベンでの連邦設立日

エディス・コーワン (Edith Cowan) (1861～1932年)

エディス・コーワンはオーストラリア議会に選出された最初の女性であり、オーストラリアの50ドル紙幣に登場しています。

エディスは女性の参政権運動で活躍し、公共教育および子供の権利の主要な提唱者でした。エディスは1915年に下級判事に、そして1920年にはジャスティス・オブ・ピースに任命されました。1921年には、エディスは国民主義者党の一員として、西オーストラリアの立法議会に選出されました。



政党の誕生

1880年代までには、オーストラリアの労働者達は強力な労働組合を結成していました。不況やかんばつ等の時期には、こうした組合は賃金や労働状況に抗議してストライキを実施しました。

1891年に、これらの労働者は労働党という政党を作りました。労働党はまず労働者の賃金と労働条件の改善という作業にとりかかりました。中産階級の人々は労働者よりも豊かな暮らしをしていましたが、労働者の状況は理解していました。賃金の設定と、ストライキの防止を目的とした公式な委員会が設立されました。1907年、連邦仲裁裁判所は労働者と妻と子供3人が「質素」でありながらも快適な生活ができるようなレベルに最低賃金を設定しました。

1910年、自由党の最初のバージョンが設立されました。この政党は多くの名称をもち、国民主義者党、連合オーストラリア党などと呼ばれました。1944年には、今日の自由党がロバート・メンジース(Robert Menzies)により設立され、その後オーストラリアで最長の在任期間を務めた首相となりました。

第一次大戦後、農家の生活向上を目指してカントリー党が結成されました。今では国民党として知られる同党は、通常自由党との連立政党として行動します。

1901年移民制限法

1901年12月に移民制限法が通過し、「白豪」主義が法律となりました。この法律により移民がオーストラリアで労働することに制限が置かれ、さらに「非白人」の移住が制限されました。

非ヨーロッパ出身者には、ヨーロッパの言語で50語の書き取り試験が義務付けられました。中国商工会議所、弁護士ウィリアム・ア・ケット(William Ah Ket)および中国系事業者のリーダー達が公に抗議を行いましたが、法改正にはあたりませんでした。

ヨーロッパからの移民は、新しく連合されたオーストラリアで多くいました。しかしながら、中国、インド、太平洋諸島や中近東出身者からの文化は既にオーストラリアの社会的なアイデンティティの一部になっていました。

ドロシア・マッケラー (Dorothea Mackellar)(1885-1968)

ドロシア・マッケラーは詩人で、1908年初版の「マイ・カントリー」と言う詩で知られています。この詩は、「私は日差しの強い国が大好き(I love a sunburnt country)」と言う文を永遠のものにしました。彼女の詩は典型的なブッシュ(奥地)の詩とされ、ニューサウスウェールズ州北西部、グネダー近くにある、兄弟の農場での経験に刺激されて書かれたものです。

1968年に、ドロシアはオーストラリア文学への貢献を称えられて、オフィサー・オブ・ザ・オーダー・オブ・ザ・ブリティッシュ・エンパイアーに指名されました。



第一次世界大戦(1914 - 1918年)

入植者とアボリジニの人々との小規模な紛争を除いては、オーストラリアは大変平和的な国です。内戦や革命も起きたことはありません。

何世代ものオーストラリアの人々は、大英帝国に対して極めて忠実であり続けました。

しかし、アジアの端にあるヨーロッパの辺境植民地として、オーストラリアは歴史的に見て、特に日本が列強国の一つとなってからは危険を感じるようになりました。オーストラリアは自国の防衛のために大英帝国とその艦隊に依存していました。オーストラリアは大英帝国の威力を維持し、オーストラリアを守るために両世界大戦で戦いました。

オーストラリアは1914年8月に第一次世界大戦に参戦し、1915年にドイツの同盟国であるトルコへの攻撃に参加しました。オーストラリアとニュージーランドの兵隊はガリポリ半島の特定部分を攻撃するように指示されました。

彼らはトルコ軍に撃たれている間、急な崖を登らなければなりません。多くの若者の命が失われましたが、彼らはなんとか崖の上まで登り、塹壕を掘りました。オーストラリアでは国民がアンザックの精神に多大な誇りを抱くようになりました。

ガリポリから撤退した後、オーストラリア軍はフランスの西部前線で戦いました。彼らがディガー(digger—掘る人)という名前を得たのはここで兵士達が塹壕を掘り、これを修復することに膨大な時間を費やしたことからです。ジョン・モナッシュ司令官(Lieutenant General John Monash)に率いられたオーストラリアのディガー達は、ドイツに対する最後の戦闘で偉大な勝利を収め、手助けをしていたフランスから多大な感謝を勝ち取りました。

女性も含むオーストラリアの軍人達は中近東にも派兵され、スエズ運河の防衛と連合軍によるシナイ半島およびパレスチナの占領に参加しました。

シンプソンとそのロバ —ジョン・シンプソン・ カークパトリック(John Simpson Kirkpatrick) (1892～1915年)

ジョン・シンプソン一等兵はガリポリで、衛生兵として負傷兵を担架で運ぶ任務についていました。丘や谷で担架を運ぶのは大変困難でした。陸軍の命令に背いて、彼はダフィー(Duffy)という名のロバを使って負傷兵を安全に搬送しました。

毎朝毎夜、何時間にも渡り、シンプソンと彼のロバは自らの命を危険にさらしながら、戦場と浜辺の軍事施設の間を往復しました。

ジョン・シンプソン一等兵は1915年4月15日にガリポリに到着しました。そして、わずか4週間後に敵の機関銃に撃たれて死亡しました。軍事施設の兵士達は、ダフィーがもはや若き主人がそばにいないのにも関わらず負傷した兵士を浜辺へと運んでくる姿を悲しみにくれたまま、無言で見守りました。ジョン・シンプソン・カークパトリックはオーストラリアの英雄的存在です。





アンザック伝承物語

アンザックの伝統はトルコのガリポリ半島で生まれました。

1915年4月25日におけるガリポリの上陸は、8ヶ月に及んだ軍事作戦の始まりであり、怪我や病気による8000名の死者を含め、26000人以上のオーストラリア人死傷者を出しました。ガリポリ半島軍事作戦に参加した人たちの勇気と精神が伝承物語を形作り、「アンザック」という言葉がオーストラリアとニュージーランドの語彙の一部となりました。

1916年4月25日、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、およびエジプトの軍隊は、この上陸の1周年を迎えました。それ以降、4月25日はアンザックデーとして知られるようになりました。

1920年代までには、アンザックデー記念式典がオーストラリア各地で行われるようになり、各州はアンザックデーを休日になりました。

この戦争とその後の紛争で死亡した若い男女に祈りを捧げるために州都には大規模な戦争記念館が、そして国中の市町村では記念碑が建てられています。

アンザックデーは、戦争、紛争、平和維持活動に従事した人々、彼らの友情、そして逆境における忍耐および我が国の未来のために行った犠牲に敬意を表する日です。戦争のさまざまな意味を振り返る日でもあります。

今日、アンザックデーは、オーストラリア国内外で記念されています。オーストラリアの退役軍人、平和維持活動に従事した人々および他の国からの退役軍人が肩を並べ、アンザックデーのパレードに誇り高げに参加しています。

大恐慌(1929～1932年)

大恐慌はオーストラリアの人々にとって極度に困難な時代でした。大恐慌はニューヨーク証券取引所での大暴落と同時に発生しました。オーストラリアの不況の原因となった他の要因には、雇用主が雇用と賃金を削減したため、オーストラリアの商品の価格の下落や産業不安が含まれました。1932年中頃までにはオーストラリア人の32パーセントが失業していました。

大恐慌のオーストラリアへの影響は計り知れないものでした。職と安定した所得を失った多くの人々は自分の家を失いました。こうした人々は暖房も衛生設備もない一時しのぎのシェルターでの生活を余儀なくされました。家庭を捨てた一家の主もいれば、酒に溺れる人もいました。多くの労働者階級の子供たちは13歳または14歳で学校を辞めました。多くの女性は子供や家の面倒を見ながら、単純労働をしていました。

大恐慌にいたるまでの間、政府は主だった失業者対策は講じていませんでした。慈善団体と一部の民間団体を除き、貧しい人々は公共事業策や雇用策に頼らざるを得ませんでした。経済は1932年に上向きに転じましたが、多くの家庭が被った被害は修復不可能なほどでした。

大恐慌の間におけるオーストラリアの慈善事業やボランティアの果たした重要な役割が重要視されました。



大恐慌中のスープキッチン

サー・チャールズ・キングスフォード・スミス(Sir Charles Kingsford Smith)(1897～1935年)

サー・チャールズ・キングスフォード・スミスはオーストラリア初期の飛行家です。第一次世界大戦において、彼はガリポリで戦い、英国の王立飛行部隊に参加しました。

彼の最大の偉業は、1928年にカリフォルニアからクイーンズランドまで太平洋横断を初めて成し遂げたことです。彼の飛行機であるサザンクロス号がオーストラリアに到着した時、25000人の観衆が英雄「スミシー(Smithy)」(彼のあだ名)に歓声を上げました。1932年には航空分野への功績のため、彼にはナイト爵が授けられました。

彼は1935年、英国からオーストラリアへ向う飛行中の事故で行方不明となり、悲劇の最期を迎えました。

サー・チャールズ・キングスフォード・スミスは世界でも最も偉大な飛行家と呼ばれており、大恐慌のまただ中において、人々が尊敬する真なるオーストラリアの英雄として覚えられています。



第二次世界大戦(1939～1945年)

第二次世界大戦では、オーストラリア人は同盟国と共にヨーロッパのドイツ、地中海および北アフリカと戦いました。また、東南アジアおよび太平洋地域で日本と戦いました。

北アフリカの砂漠では、オーストラリア軍はトブルク(Tobruk)という、ドイツのエジプトにおける最後の防御である町で、ドイツ軍とイタリア軍の長期にわたる包囲攻撃にもちこたえました。8か月間、これらの男性(主にオーストラリア人)は激しい攻撃と過酷な条件に耐え、洞窟やクレバスに住んでいました。彼らの決意、勇気とユーモアは、彼らの指揮官の攻撃的な戦術と相まって、戦争の最も暗い日々の一部において、インスピレーションの源となりました。そうすることで、彼らは「トブルクのラット」として永続的な名声を獲得しました。

1941年に、日本による太平洋戦争を開始しました。オーストラリアの軍人(男性と女性)はパプアニューギニアを守るために行きました。この大任を任せられたのは正規兵と、あまり訓練を受けていない若い徴集兵たちでした。彼らはココダ山道として知られる急な泥の山道に沿ったジャングルで敵と戦いました。オーストラリア軍は日本の前進を止めました。こうして、ココダ山道はガリポリのアンザック湾と同様に巡礼地となりました。

1942年、日本人はシンガポールのイギリス軍基地を占領しました。およそ15,000名のオーストラリア兵も捕虜となり、タイ-ビルマ鉄道で働かされることとなりました。その建設中、オーストラリア軍の多くが日本人による残酷な扱いを受けた。オーストラリア人の捕虜はお互いを助け合うために最善を尽くしましたが、2700名を超えるオーストラリア人捕虜がここで命を落としました。



ココダ山道にてパプア人の荷運び人に付添われた負傷兵

サー・エドワード・「ウェアリー」 ・ダンロップ(Sir Edward 'Weary' Dunlop) (1907～1993年)

サー・エドワード・「ウェアリー」・ダンロップは、勇敢かつ思いやり溢れる外科医で、オーストラリアにおける戦争の英雄です。第二次世界大戦中、彼は日本軍に捕えられ、タイ-ビルマ鉄道の建設で働くためにビルマに送られました。これは重労働でした。

指揮官として、ウェアリーは部下を守るために主張し、外科医としては部下の治療に長時間を費やしました。収容所で拷問を受けることもありましたが、それでも部下のために尽くし続けました。

彼は、その医療に対する功績から1969年にナイト爵を授けられました。彼が亡くなると、10,000名を超える人々が「鉄道の外科医」と呼ばれた英雄の国葬のためにメルボルンの通りに参列しました。



その他の紛争

第二次世界大戦後まもなく、1950年から1953年まで、オーストラリアの軍隊は北朝鮮の共産軍から韓国を守るために国連多国籍軍の一部として送られました。

それから間もなく、オーストラリアはアメリカ合衆国と共に、南ベトナム政府を支援して、国を再統一しようとしているベトナム共産軍を阻止しました。ベトナム戦争は、第二次世界大戦以来、オーストラリアで最大の武力への関与であり続けています。1962年から1973年まで続いたこの時期は、オーストラリアが戦った最長の戦争でもありました。それは物議を醸す関与であり、多くのオーストラリア人がその原因への反対、特に戦争への若いオーストラリア人男性の徴兵への反対を示すために通りに出ていました。

オーストラリア防衛軍は、東チモール、イラク、スーダンおよびアフガニスタンの紛争問題にも携わり、アフリカ、中近東、アジア太平洋地域等世界各地の国連平和維持活動にも参加してきました。

リメンブランスデー

アンザックデーに加え、リメンブランスデーもオーストラリア人が参戦した兵士を思い、戦死者を追悼する日です。毎年11月11日の午前11時に、オーストラリアの人々は戦争や紛争で亡くなったり、苦しんだりした男女や、軍に務めた人たちすべての犠牲を思い、黙祷を捧げます。この日には赤いケシの花をつける習慣があります。

1900年代初頭の移民

第一次世界大戦と第二次世界大戦の間は、オーストラリア入国への制限条件は依然として残っていました。しかし、移住者の数、特に南ヨーロッパ出身の男性の数は増加していました。彼らは多くの技術、教育そして自らの文化価値を持ち込みました。彼らはオーストラリアの地方産業の発展に寄与し、道路や鉄道の建設に携わりました。熟練したイタリア系の石工は、公共の建築物や住宅の建設に多大な貢献をしました。

1930年末にはヨーロッパからユダヤ系の難民が訪れ始めました。彼らはナチスドイツの脅威から逃れてきたのです。ユダヤ人達はドイツ、オーストリア、チェコスロバキア、ハンガリー、ポーランドの出身でした。その多くは高度な教育を受けており、移住後はオーストラリアの文化的生活にも大いに貢献しました。

第二次世界大戦中には約1万8千人のイタリア人兵士が捕えられ、オーストラリアの捕虜収容所に入れられました。彼らはキャンプに短時間滞在しただけでしたが、彼らは公平に扱われ、多くは土地と人々について何かを学びました。戦後、多くは移民としてオーストラリアに戻りました。



オーストラリアに到着したヨーロッパ系移民

戦後の難民

大戦後オーストラリアは人口を増加させるためにヨーロッパのその他の国から移住者を奨励しました。何百万人もの人々がナチスドイツを逃れてきたり、ソビエトロシアに占有されてしまった母国に帰ることができない状態でした。約17万名の難民が新たな人生を始めるためにオーストラリアに迎え入れられました。

オーストラリアにはまた、深刻な労働力不足という問題がありました。政府は人口増加が国の将来に不可欠であると考えました。45歳未満の健康な成人の移住者は10ポンドでオーストラリアに入国でき、その子供は無料でした。ただし依然として出身国は英国とヨーロッパの国々に制限されていました。



スノーウィーマウンテンズ水力発電計画

1949年に、政府はスノーウィー河の急流をビクトリア州東海岸に流れ出る前に利用するという大胆な計画を始めました。これは内陸の灌漑用に利用するとともに水力発電にも用いるため、河の流れを変えるというものでした。完成までに25年を要した大規模な計画となりました。

同計画はオーストラリアで最大のエンジニア計画です。また世界でも最大規模の水力発電計画のひとつでもあり、世界の現代土木工学の不思議の一つでもあります。

スノーウィーマウンテンズ計画は、ニューサウスウェールズのコジオスコ(Kosciuszko)国立公園に位置しています。同計画は16の大型ダム、7つの発電所、ポンプ場、225キロメートルのトンネル、パイプライン、導水路で構成されています。そのほとんどは地下です。

同計画はニューサウスウェールズ州とビクトリア州内陸部の農業にとって必要不可欠な水を提供しています。またその発電所はニューサウスウェールズ州における電力の最高10パーセントを発電しています。

1949年に着手された計画の完成は1974年でした。30カ国以上から10万人以上の人々が同計画の労働に携わりました。労働者の70パーセントは移住者でした。同計画完成後、ほとんどのヨーロッパ系の労働者はオーストラリアに残って生活を続け、オーストラリアの多文化社会に貴重な貢献を行ってきました。

スノーウィーマウンテンズ計画はオーストラリアの独立、多文化、資源豊富な国としてのアイデンティティにとって重要な象徴となっています。

アボリジニとトレス海峡諸島民の待遇

1940年代と1950年代には、アボリジニおよびトレス海峡諸島民に対する政策は同化政策でした。これは、アボリジニとトレス海峡諸島民が、非先住民と同じように生活するように言われたことを意味します。彼らは自分たちの文化的伝統を失いたくなかったので、機能しませんでした。

1960年代には、政策は統合政策に変わりました。オーストラリアのほとんどの男性は1850年代に選挙権を獲得しましたが、連邦の選挙権は1962年になるまで全てのアボリジニの人々には行き渡りませんでした。統合政策の一部として、アボリジニの人々には市民権が渡されましたが、それでもやはり非先住民のオーストラリア人の文化に適応することが求められました。

1967年、90パーセントを超えるオーストラリアの人々が、アボリジニおよびトレス海峡諸島民の人々を5年ごとの国勢調査で数えるべきであるという歴史的なリファレンダムに「イエス」と投票しました。これは大多数のオーストラリア人がアボリジニおよびトレス海峡諸島民が自分たちと同じ権利を与えられることを望んでいたことを示しています。

社会の価値観のこの広がりとはアボリジニによる強力な抗議は、アボリジニとトレス海峡諸島民との関係における政策決定のための主要な指針としての自己決定の導入につながりました。政府は、アボリジニおよびトレス諸島民が自らの政治的、経済的、社会的および文化的発展において発言権を持つことの重要性を認識しました。

土地所有権を巡る抗議運動は、ノーザンテリトリー内ウェーブ・ヒル(Wave Hill)牧場におけるグルンジ族のストライキにより(Gurindji Strike)1960年代に注目を集めるようになりました。ビンセント・リングアリ(Vincent Lingiari)率いるアボリジニの牧夫たちが、賃金および労働条件に抗議して、牧場での仕事を放棄しました。彼らの行動がエディ・マボを初めとする土地所有権に向けての闘いに道を開いたのです。

1976年アボリジニ土地所有権(ノーザンテリトリー)法では、アボリジニの人々にはアウトバックの土地が与えられています。1990年代初頭、最高裁判所のマボ判決および1993年先住権原法により、アボリジニおよびトレス海峡諸島民は自分たち独自の伝統的な法と習慣を基にして土地への要求権を持つことを認めています。

オーストラリアの国土の多くが、先住権原の決定によってカバーされています。ここでは伝統的社会の様相が未だ残されています。

1997年5月「Bringing them home(家庭に戻す)」という名の報告書が国会に提出されました。同報告書は多数のアボリジニとトレス海峡諸島民の子供達を家族から隔離した方針についての調査の結果をまとめたものでした。こうした子供達は「盗まれた世代」として知られるようになりました。報告書の結果、何千人ものオーストラリア人が1998年の第1回「ソーリーデー(Sorry Day)」の行進に参加し、先住のオーストラリア人たちへの支持を表明しました。

盗まれた世代への謝罪(2008年)

2008年2月13日、オーストラリア首相が、全てのオーストラリアの人々に代わり、国会において盗まれた世代に対して公式な謝罪を行いました。首相はアボリジニおよびトレス海峡諸島民の過去における待遇、特にアボリジニおよびトレス海峡諸島民の子供達とその親から引き離されたことに対して謝罪を述べました。

このスピーチはテレビおよびラジオで中継されました。何千人ものオーストラリア人が公共の場や職場で集い、この「ソーリー」スピーチに耳を傾けました。演説では公式に過去になわれた不公正を挙げてそれに対する謝罪が行われました。これはアボリジニおよびトレス海峡諸島民にとっての治癒に向けて、そしてこうした不公正を二度と繰り返さないための大切な一歩でした。「ソーリー(お詫び)」スピーチは、オーストラリア人全員にとっての大切な前進の一歩だったのです。



シドニー上空に描かれた「Sorry」の空中文字

今日、アボリジニおよびトレス海峡諸島民がオーストラリアのアイデンティティに対して行う貴重な貢献は認識され、幅広く祝福されています。多くのアボリジニとトレス海峡諸島の人々は司法制度、政治、芸術、スポーツを含むオーストラリア社会全域に渡り、指導的な職に就いています。

アルバート・ナマジラ(Albert Namatjira) (1902～1959年)

アルバート・ナマジラは、オーストラリアの風景を描くまったく新しい方法を開拓した偉大なオーストラリアの芸術家です。アレンテ族のアルバートは、若い頃から絵画に対する天賦の才能を開花させていました。正式な教育はほとんど受けていないにもかかわらず、オーストラリアの田舎風景を描いた彼の水彩画は大変人気が高く、全て飛ぶように売れました。

彼と彼の妻は、オーストラリアで市民となることが認められた最初のアボリジニでした。つまり、投票もできれば、酒場に入ることもでき、また好きなところに家を建てることも認められていました。しかしながら、アルバートのオーストラリア市民権により、他のアボリジニの人たちにはそうした権利がないという事実が浮き彫りになりました。

こうして非先住民オーストラリア人に対する人種差別的な法律の不当さが知れ渡り、よって彼の人生はアボリジニおよびトレス諸島民の人々のための変革に貢献したのです。



エディ・マボ(Eddie Mabo) (1936～1992年)

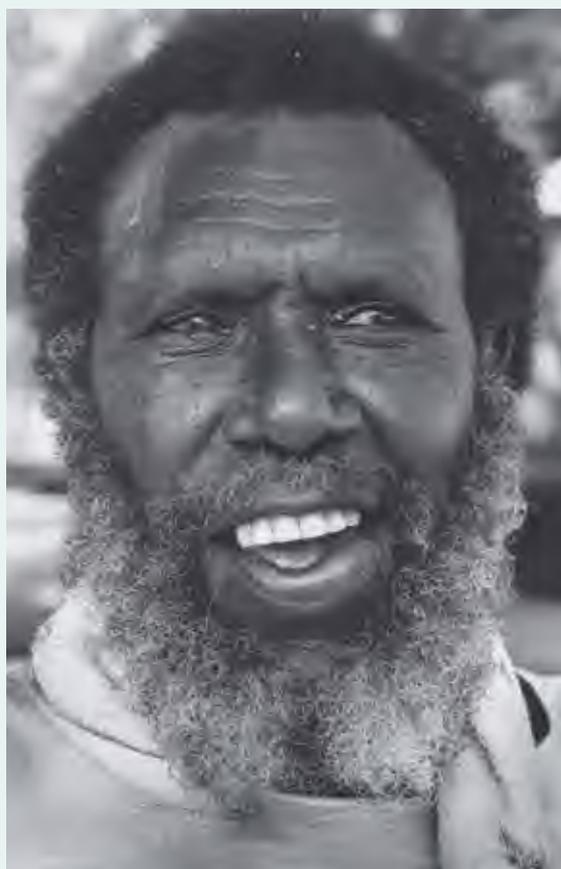
エディ・コイキ・マボ(Eddie Koiki Mabo)は活動家であり先住民の土地権に関する代弁者でした。彼は、トレス海峡のメリアム(Meriam)族の伝統的土地であるマレー島(Murray Island)に生まれました。

幼い時から、彼はどの木々と岩が一族の土地の境界線を形作っているかを正確に教わりました。

その後何年も経ってから、エディは自分の土地がオーストラリアの法では王国の土地と見なされており、一族には属していないことを知りました。彼はその怒りを行動に移し、マレー島の人々を代表して訴訟を起こしました。

幾年も経った後の1992年、エディの訴訟は最高裁で勝訴しました。マボ判決は、もしアボリジニの人々はその土地との歴史的かつ継承的なつながりを証明できれば、他に所有権の主張が行われていない限りは彼らとその土地の所有権を主張できるとするものでした。同決定により広大な土地がこれまで元の所有者に返還されてきました。

エディ・マボは、その勇気とアボリジニおよびトレス諸島民の人々のために土地所有権を獲得したことで記憶されています。



多文化移住

1950年代と1960年代には、多くのアジア人、教会およびその他のグループなどが「白豪」主義の撤廃に向けて抗議を行いました。

1958年、政府は聴き取り試験を廃止し、1966年にオーストラリアは、一部の非ヨーロッパ系と技能を有するアジア系の移民に門戸を開きました。やがてオーストラリア中で人々は移民受入計画に全ての国を含めることの価値を認識するようになりました。

「白豪主義」は1973年に廃止され、オーストラリアは多文化主義への道を踏み出しました。この時から、政府は移民の人種基準をすべて削除しました。ベトナム戦争後の1975年、オーストラリアは、主にベトナム、中国およびインドから、記録的な数のアジア人の難民と移民を受け入れました。

1945年以来、戦争で荒廃した国々からの多くの難民を含む何百万もの人々がオーストラリアに住むために来ました。今日、オーストラリアの移民は世界中からやってきています。

オーストラリアは、人種、民族または文化に関わらず誰もが社会の一員であると感じることのできる、積極的な受入政策を実施しています。この政策は、政府の政策を含め、オーストラリア社会のあらゆる側面を網羅しています。幼少期から大学までの教育カリキュラムに反映され、あらゆる職場で実践されています。

すべての個人が平等にかつ差別なく扱われる権利は、オーストラリア人権委員会とすべての州およびテリトリーの政府の差別禁止機関によって擁護されています。人種差別は公に非難されており、法律に基づく犯罪です。

オーストラリアは調和と受容の多文化社会となっています。移民、オーストラリア先住民およびオーストラリアで生まれたすべての人が平和に目標を自由に追求できる国です。

ビクター・チャン医師 (Dr Victor Chang)(1936～1991年)

ビクター・チャン医師は、オーストラリアでも最高の心臓外科医のひとりでした。ビクター・ピーター・チャン・ヤム・ヒムは1936年に中国で生まれ、15歳の時にオーストラリアに移住しました。

彼はシドニーのセントビンセント病院(St. Vincent's Hospital)で勤め、1984年にオーストラリア初の心臓移植専門のセンターを開設しました。1986年、ビクターは、Companion of the Order of Australiaを授与しました。

ビクターは臓器提供者の少なさを憂慮して人工心臓の設計を始め、1991年に悲劇的な死を遂げた時は完成を間近に控えていました。

彼を記念して新たな研究センターが開設されました。同医師は、その専門知識、前向きな性格、イノベーションで、人々の記憶に残っています。



まとめ

ここでは、オーストラリアの歩んできた道をごく簡単に紹介してきました。平和で民主的なこの国に完全参加するため、私たちはあなたのオーストラリア市民権取得を歓迎します。

市民として、あなたはオーストラリアの他の市民と同じ責任と特権をすべて共有し、オーストラリアのコミュニティの完全なメンバーとして仲間入りします。あなたはオーストラリアの未来を形作る手助けをする責任を共有し、その国家プロジェクトへの積極的な参加を期待されています。

試験対象外セクションの用語集

大使

国やアクティビティを代表したり、促進したりする人物

委員会

会社の経営方針等、意思決定を行う目的等のために選ばれた人々の集団

寄宿学校

学生が学校で生活し、学期中には家に帰らない学校

ブッシュ

自然の状態に保たれたオーストラリアの田舎

牛の放牧場

牛が飼われている大規模な農場

憲章

権利と責任についての公式声明書

共通の土台

興味を共有する分野

徴集兵

防衛軍への加入を選択したわけではないが戦時中に加入を余儀なくされた兵士

王国の土地

政府に属する土地

カリキュラム

学習コースにおける課目やトピック

貧窮

お金を持たないか、稼ぐ手段を持たないこと

ディジェリドゥー didgeridoo

中が空洞となった丸太でできたアボリジニのオーストラリア人の楽器

フェアプレー

ルールに従い、不当な利点を持たないこと。人々の公正で正直な扱い

亡くなった男女の兵士

戦争や戦闘で殺された男女の兵士

構築する

建てるまたは作ること

国民総生産

一年間に一国で生産された全ての商品およびサービスの価値

熱波

連日で続く極めて暑い天気

国家に対する大逆罪

政府を転覆させようとする重大な犯罪行為

象徴

有名で代表的な画像

象徴的な先住民絵画

アボリジニおよびトレス諸島民特有で代表的なアート

先住民

オーストラリアのアボリジニおよびトレス海峡諸島の人々

陸塊

大きい領域を占める土地

画期的な出来事

歴史上大切な出来事

先住権原

オーストラリアの法制度で決定された、アボリジニおよびトレス諸島民が土地と水に対して有する伝統的権利

口述歴史

人々がその記憶を語る過去の出来事

開拓者

初期の入植者、入植初期の功労者

政治代表

議会における政治家による代表

刑期

犯罪の有罪を認めた者に対する刑務所での滞在期間など、裁判官が決定した刑罰

賃金の設定

従業員がその労働の対価としていくら支払われるかを定めること

社会改革

社会の改善を、革命ではなく徐々に行うこと

国葬

国に重要な貢献を行った市民に敬意を表して、政府が費用を支払う葬儀

柵

木製のくいや柵でできた防御用の囲い込み

牧夫

畜牛の面倒を見るために雇われた男達

ストライキ

給与または労働条件等に抗議する理由で従業員が労働を停止すること

参政権

公選挙で投票する権利

宣誓就任

正式な儀式において公官庁に受入れられること

社会的階級

社会階級、または出身、仕事、地位

詳細情報

オーストラリア市民権

オーストラリア市民になる方法についてのさらなる詳細情報は、www.citizenship.gov.auをご覧ください。

オーストラリア

オーストラリアについての詳細情報は、最寄りの図書館で入手できます。以下のウェブサイトにも詳しい情報が掲載されています。

- オーストラリアについてwww.australia.gov.au
- オーストラリア概要www.dfat.gov.au

オーストラリア政府の政策とサービス

オーストラリア政府のプログラムとサービスのさらなる詳細情報については、www.australia.gov.auをご覧ください。

連邦下院もしくは上院議員

あなたの州もしくはテリトリーにおける地元の連邦下院もしくは上院の議員も、オーストラリア政府のプログラムとサービスに関する各種情報を提供しています。

下院議員と上院議員の一覧はwww.aph.gov.auで閲覧することができます。

オーストラリア政府の組織

本書に記載されているオーストラリア政府の組織に関する詳細情報は、以下のウェブサイトから入手することができます。

- オーストラリア防衛軍 Australian Defence Force www.defence.gov.au
- オーストラリア選挙委員会 Australian Electoral Commission www.aec.gov.au
- オーストラリア連邦警察 Australian Federal Police www.afp.gov.au
- オーストラリア人権委員会 Australian Human Rights Commission www.humanrights.gov.au
- オーストラリアスポーツ委員会 Australian Sports Commission www.sportsaus.gov.au
- オーストラリア国税庁 Australian Tax Office www.ato.gov.au
- オーストラリア戦争記念館 Australian War Memorial www.awm.gov.au
- オーストラリア準備銀行 Reserve Bank of Australia www.rba.gov.au

非政府系組織

本書に記載されている非政府系組織に関する詳細情報は、以下のウェブサイトで入手することができます。

- ブラッドマン・ファンデーション・オーストラリア Bradman Foundation Australia www.bradman.com.au
- ハムリン・フィスチュラ Hamlin Fistula www.fistulatrust.org
- ロイヤルフライングドクターサービス・オブ・オーストラリア Royal Flying Doctor Service of Australia www.flyingdoctor.org.au
- スクール・オブ・ジ・エア School of the Air www.schoolair-p.schools.nsw.edu.au
- スノーウィーマウンテンズ水力発電所 Snowy Mountains Hydro-Electric Authority www.snowyhydro.com.au
- フレッド・ホロウズ・ファンデーション Fred Hollows Foundation www.hollows.org
- UNESCO世界遺産センター UNESCO World Heritage Centre whc.unesco.org
- 国際連合 United Nations www.un.org
- ビクター・チャン心臓研究所 Victor Chang Cardiac Research Institute www.victorchang.edu.au
- ボランティアリング・オーストラリア Volunteering Australia www.volunteeringaustralia.org

その他

以下の話題についての詳細情報は、次のウェブサイトをご覧ください：

- オーストラリア憲法 www.aph.gov.au
- オーストラリアン・オブ・ザ・イヤー www.australianoftheyear.org.au
- ‘Bringing them home’報告書 www.humanrights.gov.au
- 連邦の公園や保留地 www.environment.gov.au
- オンラインセーフティー www.esafety.gov.au
- ドメスティックバイオレンスおよび家庭内暴力に対する支援 www.respect.gov.au, www.1800respect.gov.au, www.dss.gov.au/women/help-is-here-campaign
- オーストラリアの著名人：The Australian Dictionary of Biography adb.anu.edu.au
- 国会に現在提出中の法案一覧 www.aph.gov.au
- 国会 www.aph.gov.au
- 国会教育サービス www.peo.gov.au
- 祝日 www.australia.gov.au
- 人種差別 humanrights.gov.au
- オーストラリアのアボリジニとトレス海峡諸島民の人々への謝罪 www.australia.gov.au

謝辞

以下の画像は農業省、水と環境により提供されました。

50頁 タスマニア原生地域

以下の画像は内務省により提供されました。

5頁 キャンベラのアルバートホールでの市民権式典

5頁 オーストラリア市民権証書

11頁 スモーキング・セレモニー、キャンベラ

34頁 キャンベラのオーストラリア市民権式典での家族

以下の画像はオーストラリア国立公文書館により提供されました：

51頁 NSW、牧羊場の子供たち - スクール・オブ・ジ・エア、1962年撮影 (ref: A1200:L42511)

60頁 ディック・スミス (Dick Smith)、民間航空局議長、1991年 (ref: A6135:K23/5/91/1)

65頁 アベル・タスマン (Abel Tasman) によるニューホーランドの地図、1644年 (ref: A1200:L13381)

68頁 オーストラリアにおけるゴールドラッシュの歴史的写真、1851年 (ref: A1200:L84868)

70頁 オーストラリアのアウトバックの「アフガン」ラクダ乗り (ref: A6180:25/5/78/62)

77頁 サー・エドワード・「ウェアリー」・ダンロップ (Sir Edward 'Weary' Dunlop)、1986年 (ref: A6180:1/9/86/12)

78頁 オーストラリアでの移民の到着、ケアンズにてフレミア号に乗ったイタリア系のサトウキビ刈入れ業者、1955年 (ref: A12111:1/1955/4/97)

以下の画像はオーストラリア国立図書館により提供されました：

53頁 ジュディス・ライト (Judith Wright) の肖像、1940年代発表 (ref: nla.pic-an29529596)

65頁 1788年1月27日のシドニー湾の第一船団、ジョン・アルコット (John Allcot) (1888~1973年) 作 (ref: nla.pic-an7891482)

66頁 キャロライン・チザム (Caroline Chisholm) の肖像、トーマス・フェアランド (Thomas Fairland) 発表 (ref: nla.pic-an9193363)

71頁 キャサリン・ヘレン・スペンス (Catherine Helen Spence) の肖像、1890年代発表 (ref: nla.pic-an14617296)

74頁 ガリポリでのジョン・シンプソン・カークパトリック (John Simpson Kirkpatrick) とその口バ、1915年 (ref: nla.pic-an24601465)

76頁 サー・チャールズ・エドワード・キングスフォード・スミス (Sir Charles Edward Kingsford Smith) の肖像、1919年から1927年の間に発表 (ref: nla.pic-vn3302805)

81頁 ノーザンテリトリーのハーマンズバーグ・ミッションでのアルバート・ナマジラ (Albert Namatjira) の肖像、アーザー・グルームにより1946年または1947年に発表 (ref: nla.pic-an23165034)

以下の画像は iStock により提供されました：

表紙 ミモザ春の花、©iStockphoto.com/ST-art (ref: 1135566007)

6頁 カンガルーの母子、ラッキーベイ、西オーストラリア、©iStockphoto.com/NeoPhoto (ref: 1142608453)

9頁 ヒューム湖、ビクトリア、©iStockphoto.com/tsvibrav (参照: 675826394)

15頁 オーストラリア産ブラックオパール、©iStockphoto.com/Alicat (ref: 173691056)

17頁 オーストラリアの旗、©iStockphoto.com/davidf (ref: 471630390)

- 19頁 小学生の多民族グループ、©iStockphoto.com/FatCamera (ref: 877714382)
- 23頁 オーストラリア国会議事堂、キャンベラ、©iStockphoto.com/felixR (ref: 157193181)
- 33頁 人々のグループ、©iStockphoto.com/davidf (ref: 913541808)
- 36頁 小槌と正義のはかり、©iStockphoto.com/studiocaspar (ref: 1004781908)
- 37頁 多様なグループ、©iStockphoto.com/SolStock (参照: 1203934273)
- 39頁 グリーンワトルクreekでの火事、オーストラリア、ニューサウスウェールズ州2019年12月、©iStockphoto.com ピーター・ベロブラジック (参照: 1198579743)
- 47頁 手描きのディジュリドゥ、©iStockphoto.com/lore (ref: 185011099)
- 48頁 ボンダイビーチ、シドニー©iStockphoto.com/Edd Westmacott (ref: 91095176)
- 49頁 シドニーオペラハウス、ニューサウスウェールズ州、©iStockphoto.com/slowstep (ref: 607986870)
- 50頁 ウルル-カタ・ジュタ国立公園、ノーザンテリトリー、©iStockphoto.com/bennymarty (ref: 1184425004)
- 63頁 ウルル、ノーザンテリトリー、©iStockphoto.com/simonbradfield (ref: : 539027478)
- 64頁 アボリジニのロックアートーサラトガ魚、©iStockphoto.com/Alpen Gluehen (ref: 2761924)
- 75頁 オーストラリア戦争記念館の壁、キャンベラ、©iStockphoto.com/マット・パーマー (参照: 1125736631)

以下の画像は Shutterstockにより提供されました：

- 7頁 ホームグラウンドフェスティバルの先住民ダンサー、シドニー、©shutterstock.com/PomInOz (ref: 345113882)
- 21頁 投票者、©shutterstock.com/Nils Verseemann (ref: 446229916)
- 31頁 オーストラリア最高裁判所、©shutterstock.com/Greg Brave (ref: 1051621895)

その他全ての画像は以下の組織/方々により提供されました：

- 24頁 1900年オーストラリア連邦憲法公文書原本、ACT、キャンベラの議会サービス省、議事堂美術コレクション、ギフトコレクション提供
- 40頁 オーストラリア南極局提供のハード島およびマクドナルド島の写真、© Commonwealth of Australia、L. E. ラージ(L. E. Large)撮影 (ref:1892A2)
- 52頁 ブラッドマン・クリケット博物館提供、サー・ドナルド・ブラッドマン (Sir Donald Bradman) の写真1931～32年オーストラリアンシーズン中に撮影された、オーストラリアのテストキャップを着用したサー・ドナルド・ブラッドマンの写真
- 54頁 フィオナ・ウッド医師AMの写真、ナショナル・オーストラリア・デー委員会により提供
- 55頁 フレッド・ホロウズ・ファンデーション提供、フレッド・ホロウズ教授(Professor Fred Hollows)の写真、フランク・ビオリ(Frank Violi)撮影
- 56頁 ジェームス・ミキ医師AMの写真、オーストラリアン・オブ・ザ・イヤー・アワードにより提供
- 56頁 ミシェル・シモンズ教授の写真、ナショナル・オーストラリア・デー委員会により提供
- 61頁 ハムリン・フィスチュラ救済基金提供、キャサリン・ハムリン医師AC(Dr Catherine Hamlin AC)の写真
- 71頁 1901年連邦設立日に、ブリスベンにおいて群衆を前にして演説するラミントン伯爵の画像、クイーンズランド州立図書館提供、H.W.モスピー(H.W. Mobsby)撮影(ref: 47417)
- 72頁 エディス・コーワンの写真、オーストラリア国立博物館により提供
- 73頁 ドロシア・マッケラーの写真、ニューサウスウェールズ州国立博物館により提供
- 76頁 ニューサウスウェールズ州立図書館 (ミッチェルライブラリー) 提供、スープキッチンの写真。NSWのベルモアノース公立学校の学童達がスープとパンの無料配給に並ぶ模様。1934年8月2日、サム・フッド(Sam Hood)撮影(ref: H&A 4368)
- 77頁 オーストラリア戦争記念館提供、ココダ山道の負傷兵(ref: 014028)
- 81頁 バーニタ(Bernit)およびゲイル・マボ(Gail Mabo)の許可に基づき複製されたエディ・マボ(Eddie Mabo)の写真
- 82頁 ビクター・チャン心臓研究所提供、ビクター・チャン医師(Dr Victor Chang)の写真

